



ふれあいの橋の会

REPORT なんぶ

大山 なんぶ幸朋苑 3/26 撮影

と き 2026年3月26日(木) 14:00~15:30

見学先 介護老人福祉施設 なんぶ幸朋苑、生活支援ハウス なんぶ幸朋苑 米子市石井 1238

出席者 【委員】 鶴亀 寿子、岸本 保子

- 【なんぶ 幸朋苑】 中村 泰丈 (なんぶエリア 総合施設長)
- 徳岡 久美子 (なんぶエリア 在宅課長)
- 中嶋 健児 (介護老人福祉施設なんぶ幸朋苑 介護課長)
- 野口 真 (介護老人福祉施設なんぶ幸朋苑 主任相談員)
- 池田 真大 (介護老人福祉施設なんぶ幸朋苑 介護主任)
- 【法人本部】 荒井 祐二 (監事)

NANBU Area Report



■なんぶエリアの現況

開会（荒井監事）：本日は天候に恵まれ、残雪を被った大山の雄姿を眺望することができ、合わせて桜の開花を見ることができました。本日は、1996年8月に開設した「なんぶ幸朋苑」を見学していただきます。特養や老健、ケアハウス、生活支援ハウスなど施設系の事業所に加え、在宅・訪問系の事業所が総合的に配置された施設です。本日は「介護老人福祉施設なんぶ幸朋苑」「生活支援ハウスなんぶ幸朋苑」を見学していただきます。はじめに、なんぶエリアの現況を中村総合施設長から報告いただきます。

中村総合：年度末の決算期であり、一年を振り返る時期となっています。なんぶエリアは、永江地区で「みんなの居場所あいRIN」をスタートし、地域の皆さんには大変好評ですが、社会福祉の増進に寄与す公益事業であります。また、人件費や物価高騰による影響もあり、経営者はどこも苦戦をしているかと思えます。なんぶ幸朋苑内にある生活支援ハウスは、米子市が入退居の決定権を持っている施設で、以前から経営上に課題があるため、市と相談し、一部を住宅型有料老人ホームに用途変更することになりました。

荒井監事：では、生活支援ハウスの現況を徳岡在宅課長から報告ください。

■施設の現況・課題

徳岡課長：生活支援ハウスは、20の居室がありますが、現在の登録は12室です。男性6名、女性6名、65～90歳、平均年齢78.1歳、介護認定のない人から要介護2までが入居されています。主なサービスは、食事提供や安否確認、相談受付、服薬支援です。訪問介護やデイサービスを利用される人もあります。四季折々に入居者が交流する取り組みをしています。食事の時間には、音楽を流すようにしています。来年度には新規入居の受け入れを中止し、段階的に有料老人ホームの利用に変更していきたいと考えています。

鶴亀委員：音楽を流すと雰囲気も変わるし、入居者同士の会話にもつながるでしょうね。

徳岡課長：昔懐かしい曲を流すようにしており、和やかな雰囲気になっています。

中嶋課長：特養（介護老人福祉施設）は、111床で運営しています。以前は地域密着型特養が24床ありましたが、隣接する南部町からの入居希望が多いことから全室を広域型に変更しました。コロナ禍で地域との交流が希薄になっていましたので、なんぶ幸朋苑のことを地域の皆さんに知っていただこうと取り組みを進めています。その一例を池田主任が紹介します。

池田主任：こうほうえんの取り組みをスライドで紹介。職員旅行、ポーリング大会、苑内の活動、行事食、嚥下体操、花見など。



野口主任：なんぶ幸朋苑は、介護老人福祉施設 80 名、ユニット型介護老人福祉施設 31 名の定員で運営しています。現在の入居者は、女性 89 名、男性 22 名、平均介護度 4.2、平均年齢 89 歳です。その他にショートステイ 9 名もあります。全室を広域型にしましたので、米子市以外の人々からも喜ばれています。すべて 1 階フロアで繋がっています。

■施設内外の点検・提言

荒井監事：施設内を見学していただきました。配布しました評価表（①建物、施設内、周辺 ②職員の態度、接遇 ③ご利用者へのサービス ④地域交流）のチェック項目を照合し、気づいた点を指摘してください。

鶴亀委員：廊下には、さまざまな観葉植物の鉢植えが配置されていて、とても和みます。委託したものですか。

中嶋課長：観葉植物のリース事業をしている「もみの木福祉会」の鉢植えです。管理も委託しています。

岸本委員：リースの鉢植えは、水やりなどの管理が難しく、枯らしてしまうことがあります。水やりのタイミングなどを聞いておいたほうがいいです。

中嶋課長：いろいろな種類の鉢植えがありますので、作業所と調整し、適切な管理に努めます。

荒井監事：特定技能実習生が勤務されていました。現況はどうですか。

中嶋課長：特養には、フィリピン人の男性 2 名、女性 1 名の特定技能実習生が勤務しています。人員不足の中、とても助かっています。2 年目になりますと、夜勤もします。日本語も流ちょうに話し、書き文字もきれいです。

鶴亀委員：実習生の皆さんは、期間が終了すると帰国し、習得した技術を還元させようとしているのですか。

中村総合：国内の人手不足を解消するために始まった制度で、技術を学んで母国に持ち帰って生かす人もありますが、日本での在留期間が長くなり、永住に繋がることもあるようです。こうほうえんで勤務されている実習生は、みんな真面目で、ご利用者からの評判もいいです。



鶴亀委員：なんぶ幸朋苑は2階建ての施設ですが、広いため利用者も来苑者も迷うのではないですか。

野口主任：要所要所に配置図を掲示し、現在地を示していますが、迷われる人はあります。

鶴亀委員：報道によりますと国内の就業人口が年々減少し、どの産業も人員不足で困っているようです。特に、少子化の影響で若い人が少なくなっているようです。

中嶋課長：本日池田主任がスライドで説明しましたように、多くの人々になんぶ幸朋苑を知っていただくように広報活動に力を入れたいと思っています。

岸本委員：数年前に米子南高校の生徒が、ファッションショーをしてくれましたが、最近の交流はどうですか。

池田主任：なんぶ幸朋苑の周辺には、米子高校や米子南高校などが配置されていますので、研修やボランティアで来苑する生徒が多数あります。

鶴亀委員：ご利用者には様々な形で、地域との交流事業を増やしていただきたいと思います。日々の変化が心身ともに活性化し、長生きに繋がります。

池田主任：コロナも落ち着いてきましたので、ボランティアの受け入れをどんどん進めていきたいと思っています。

荒井監事：今年は、開設30周年になりますが、記念事業の準備は進んでいますか。

中村総合：学校や地域の行事と重ならないよう日程を調整中です。9月ごろに開催予定です。

中村総合：次回の「ふれあいの橋の会」は、4月23日(木)14:00~デイサービスセンターいしいを予定しています。

